

総務政策常任委員会県内調査報告書

平成30年7月26日（木）に、「県行政の総合的企画に関する事項について」及び「ヘルスケア・ニューフロンティアの総合的企画、調整及び推進に関する事項について」について調査を実施したところ、その概要は次のとおりでした。

神奈川県議会議長 桐生秀昭 殿

総務政策常任委員会 委員長 国松 誠

# 総務政策常任委員会県内調査報告書

平成30年7月26日（木）

## 1 調査の概要

- (1) 調査箇所 湘南ヘルスイノベーションパーク、未病バレー「BIOTOPIA」
- (2) 出席委員 国松委員長、渡辺(ひ)副委員長、  
おざわ、嶋村、森、松田、斉藤(た)、松崎、高谷、谷口、近藤、楠  
の各委員
- (3) 調査日 平成30年7月26日(木)

## 2 湘南ヘルスイノベーションパーク

### (1) 調査目的

湘南ヘルスイノベーションパークは、日本初の製薬企業主導によるオープンで、イノベティブなエコシステムの醸成を目指している。製薬企業のもつ創薬ノウハウを基盤に産、官、学が結集し、湘南ヘルスイノベーションパークを活用したベンチャー企業支援、ヘルスケア分野における人材育成及び国際展開に関する連携協力を行っている。

また、県との関わりとしては、湘南ヘルスイノベーションパークを展開している武田薬品工業(株)と平成30年4月6日に覚書を締結している。

そこで、同パークの取組を調査することにより、ベンチャー企業支援、ヘルスケア分野における人材育成及び国際展開に関する連携協力について委員会審査の参考に資する。

### (2) 主な説明項目

平成30年4月6日に神奈川県と武田薬品工業(株)で覚書の締結をしており、締結の目的は、県内においてオープンイノベーション拠点を形成し、ベンチャー企業への支援などを行うことによって健康寿命の延伸やヘルスケア分野の産業創出を図り、ヘルスケア・ニューフロンティアを推進するためである。

神奈川県と武田薬品工業(株)が目指すスキームとして、川崎市殿町地区、かながわサイエンスパーク(KSP)、湘南ヘルスイノベーションパークで拠点間連携を促進し、ベンチャー支援策の連携や共同研究の推進により地域の産業振興や人材育成などへ貢献することである。

湘南の地に様々な研究者や研究プロジェクトが結集し、日本を代表するイノベーション創出エンジンとなり、創薬やヘルスイノベーションのための活気あふれる堅固なエコシステムの醸成を目指している。エコシステムとは、製薬企業、バイオベンチャー等が協力して一緒に創薬を考える、新しい技術など、患者を中心とした役に立つ薬を売り出していく全体の基本形成である。最先端の研究設備や研究環境を提供している。

未来を支える柱が四つあり、「醸成」、「協力」、「加速」、「発展」である。醸成は、バイオベンチャーを育てていき、世界に羽ばたく。協力は、現在22社が入社

しており、多くの企業が集合し、協力する。加速は、武田薬品工業(株)の専門性、施設を外に開放して創薬を加速する。発展は、神奈川県のほかのサイエンスパークと協力し、一緒にいろいろなイベントを行い、人材交流、大学や企業に誘致していき、地域を活性化する。このような未来を目指している。

### (3) 主な質疑応答

**質 疑** 神奈川県は、ヘルスケアに非常に力を入れており、その中で、武田薬品工業(株)と覚書を締結している。国と違い、できることは限られているが、ヘルスケアを神奈川県として進めていくために、武田薬品工業(株)とどういった協力体制を求めているのか。

**応 答** 神奈川県の協力は、既に提携を結んでおり、主にサイエンスパーク、川崎市殿町地区と溝の口と一緒にバイオベンチャーの育成、イベントを行い、協力いただいている。引き続き、再生医療、データの活用、未病などといったところで、サイエンスパークとして一緒に協力させてほしいと思っている。

**質 疑** 地域とのつながりは現状どのような感じなのか。

**応 答** 地元とのつながりについては、非常に大きな柱として捉えている。地域経済の活性化、地域の方々とのサイエンスのつながりを重視している。テナント誘致も一つの目的は、ここで研究者を育てて、地元の研究者を入社させたい。そして、サイエンスを地域の方々に広めたいという思いがある。科学実験や見学のできる親子科学教室なども企画している。

**質 疑** ベンチャー企業で22社入っているが、この22社はどのような過程で入ったのか。

**応 答** まだ、平成30年4月開所であるため、外部の企業、会社、バイオベンチャーというのは、4件くらいである。延べ数に入っていたのは、主に武田薬品工業(株)とのパートナーシップで入ってきたのがほとんどである。若しくは、去年から今年にかけて、もともと武田薬品工業(株)の中にいた研究者が、武田薬品工業(株)の技術、自分でバイオベンチャーを起こした会社が11社あり、それを含めて22社である。

**質 疑** 今後、どれくらい拡大していくのか。

**応 答** 目標ではあるが、来年までに50社、再来年までに100社、最終的には200社程度を目指している。

**質 疑** 武田薬品工業(株)として、出口戦略、様々なベンチャー企業が入って、今後、どういった生産性の向上など、出口戦略をどのように考えているのか。

**応 答** 武田薬品工業(株)の目的であるが、主に二つあり、一つは、創薬と

して薬を作るのに必要なテクノロジーがどんどん進化していて、1社では賄いきれないレベルに達している。従来、武田薬品工業(株)が持っていた錠剤の薬のテクノロジーでは次世代の治療が賄えない。今は遺伝子治療の時代であるため、こうした領域の専門性を全て1社でかかえるのは不可能な時代になっているから、最先端の技術を持った会社、バイオベンチャーが集まって、もし武田薬品工業(株)がその技術に興味があれば、いつでもアクセス可能、技術の吸収ができる。

もう一つは、いろいろなバイオベンチャー、企業家精神豊富な創業者がこの地に集まると、武田薬品工業(株)の研究者たちがその方たちと交わることで、自分たちの企業家精神が育まれることにより、内部の生産性も高まる。出口戦略という直接的なものではないが、目的としては、将来的に何らかのパートナーシップが一つでも二つでも生まれればと考えている。

**質 疑** 社員が企業家精神を持って、スピードで出ようということも支援可能なのか。

**応 答** そのとおりである。既に企業家精神を育てて、自分の技術を持って外に出ようという方が10社以上という実績がある。武田薬品工業(株)が全力でサポートし、ある程度の保障を持って進んでいる。今の武田薬品工業(株)の戦略に沿わない技術であれば、自分で起業して、その技術を世に届ける方がいればサポートしていく。

**質 疑** 特許であったり、技術革新だったり、知的財産みたいなものを保護していかないといけないと思うが、そういう部分は武田薬品工業(株)で担保して自由活発に行っているのか。若しくは、そういった保護をどうしていかなければいけないというものはあるのか。

**応 答** ボストンでは、成功しているサイエンスパークがあり、一番気を使っているのが知的財産保護のようである。交流を活発にしなくてはいけないが、一方で知的財産を守らなくてはならない。一言で言うと、これは経験だということである。交流する際にどこまで出すか、どこまでは出してはいけないのかをやり取りするうちに、自分たちも学ぶ。ISシステムなどは、きちんとセキュリティーができており、武田薬品工業(株)がアクセスしようとしてもできない関係をきちんと整えるように提供している。

**質 疑** 平成30年4月6日に覚書を締結ということで、覚書締結に至るまでの間の経緯や、今回、ベンチャーへの支援等とあるが、この湘南の研究所のみなのか。

**応 答** 経緯については、そもそも2011年に武田薬品工業(株)の湘南研究所

が開設したときに大阪府と神奈川県で激しい争いをした上で、ここに誘致された。その頃から神奈川県とはいろいろ協議して、ここに来た。2016年に武田薬品工業(株)の研究開発の体制が再編され、一部ネガティブな報道もあったが、そのようなときに神奈川県から湘南ヘルスイノベーションパーク構想の話があり、是非、一緒にということになった。

ベンチャーのサポートシステムであるが、こちらに入所されたベンチャーにサポートを提供するということで、こちらに誘致したいと考えている。



#### (4) 調査結果

湘南ヘルスイノベーションパークを活用したベンチャー企業支援、ヘルスケア分野における人材育成及び国際展開に関する連携協力に重点を置いていた。

以上のように、湘南ヘルスイノベーションパークにおけるベンチャー企業支援等の取組を調査したことにより、本県の今後の施策を審査する上で、参考に資することができた。

### 3 未病バレー「BIOTOPIA」

#### (1) 調査目的

未病バレー「BIOTOPIA」は、県西地域活性化プロジェクトに基づき、県西地域が未病の戦略的エリアであることをアピールする拠点施設として、(株)ブルックスホールディングスと大井町の共同提案に基づいて県とともに設置を推進した施設であり、平成30年4月に第1期オープンを迎えた。BIOTOPIAの名称由来のとおり、BIO(いのち輝く社会の実現)、TOPIA(未病改善の取組を実現する理想的な里)を表し、訪れた方々が新たな自分を知り、感じ、気付くことを大切に、食、運動、癒しを通して発見と驚きを提供している。

また、県との関わりとしては、県西地域活性化プロジェクトに関する拠点施設であり、施設内には県が運営するme-byoエキスポプラザも設置している。

そこで、未病バレー「BIOTOPIA」の取組を調査することにより、未病戦略に関する今後の委員会審査の参考に資する。

#### (2) 主な説明項目

様々な地域資源を有し、年間3千万人もの観光客を引き付けている県西地域は、食生活や運動などのライフスタイルを見直して未病の改善をキーワードに新たな活力を生み出す場である。そうしたことから、県では地域の市町や団体から意見、要望を頂いて県西地域の自然や食材などの魅力を生かし、県西地域活性化プロジェクトを策定して、この県西地域を未病の戦略的エリアとして地域一体となり、活性化の取組を進めている。

BIOTOPIAの設置の経緯であるが、県西地域活性化プロジェクトに、県西地域が未病の戦略的エリアであることをアピールする核となる拠点として、未病いやしの里センター(仮称)設置を位置付けた。平成27年5月に設置場所やコンセプト等に関する提案を民間事業者等から募集し、同年8月に(株)ブルックスホールディングスと大井町の共同提案を最終提案として採択した。その後、基本計画案の策定を進め、平成28年7月に(株)ブルックスホールディングス、大井町、県は基本協定を締結し、同年8月に事業の円滑な推進を図るための連携、協力の場として、3者による連絡会議を設置し、取組を推進している。平成29年5月に正式名称を未病バレー「BIOTOPIA」に決定し、整備を進めて本年4月に第1期オープンを向えた。

BIOTOPIAは、未病に関する総合的な普及啓発を行うとともに、未病コンセプトに基づいた「にぎわいの創出」と「産業の活性化」の拠点として設置を進める施設である。それぞれ3者が役割分担をして進める。県は、未病の改善を政策として推進しているので、未病の改善に関する普及啓発を目的とした施設であるme-byoエキスポプラザを設置、運営している。普及には、集客が見込める施設にする必要があり、施設の設置、運営に関して(株)ブルックスホールディ

ングスの役割として「にぎわいの創出」や「産業の活性化」に取り組んでいる。

また、大井町については、(株)ブルックスホールディングスの共同提案者として、県西地域の他の市町との地域間連携など、事業を円滑に進めるための取組を担うこととしている。

me-byoエキスポプラザは、未病を知り、楽しみながらライフスタイルを見直すきっかけとなる15のコンテンツをそろえた体験型施設として、県が設置、運営している。これまで、約8万人が来場している。第1期集客は約6万人を目標にしており、順調なスタートを切っている。

(株)ブルックスホールディングスとして、オープニングイベントを平成30年4月28日～30日に行い、多くの来場者が来て、7月15日に年間集客目標である20万人を達成できた。にぎわいの創出、未病の改善、産業の活性化を基本コンセプトとし、世界に誇る最高の健康スタイルを集積、創造し、生活習慣に根ざす体験を提供することをビジョンとして掲げている。マルシェとして、カラダとココロに優しくをテーマに、新鮮な自然の恵みの地元特産物、生産者が心を込めて作った食材、オーガニック商品を探し出し、提供している。

第2期以降に整備予定の施設として、温浴施設（スパ）、宿泊施設（ヴィラ）等を段階的に整備していく。

### (3) 主な質疑応答

**質 疑** 県のme-byoエキスポプラザがあるが、リピーター、もう一度来たくなる仕掛けづくりなどはどのように考えているのか。

また、地域活性化の今後の展望は、どのように考えているのか。

**応 答** 今後、リピーターを確保していくためには、ソフトの充実はもとより、BIOTOPIA全体の中で、いろいろなコンテンツを組み合わせる。あとは、マイME-BYOカルテをうまく使いながら、施設の中で計測ができる機能を生かしたりする。もう一つ、このBIOTOPIAを核として、県西地域には食、運動、癒しといった、いろいろ巡るツアーなども企画する。

**質 疑** 今、BIOTOPIAの入居数はどのくらいで、いつ頃満室ということを考えているのか。

**応 答** 本館2階にサテライトオフィスが11部屋あり、ミニチュアの外のオフィスがあって、現在、テナント募集をしている。現在のところ、数社入ってきている状況である。そして上層階は、これから事業者募集を推進していくので、目標が見える小さな器ではないため、使う方の使い勝手、方法、にぎわいを創造する新しいビジネスを、今後、進めるので、雑居ビルにするつもりはない。

**質 疑** 来場者の声の収集は、こういった手法で行っているのか。また、広



報はどのようにしているのか。

応 答 利用者アンケートを取っている。広報については、(株)ブルックスホールディングスと協力しながらホームページや県のたよりなどで、PRしている。

質 疑 始まったばかりではあるが、どういった声が上がっているのか。

応 答 未病というのは、言葉だけではなく、実際に施設で体験することにより、思っていたよりも体力が落ちていたと気付いたという声や、子供は楽しみながら、体を動かすことを肌で感じるといったきっかけになっているという、未病の改善につながったといった声がある。

質 疑 今後、温浴施設（スパ）、宿泊施設（ヴィラ）も計画していると思うが、地域のパッケージというのは、今のところ、どういったイメージを描いているのか。

応 答 県西地域というのは、自然が豊かである。県西地域のくくりの中でも足柄平野と海のある南の小田原市では、同じ自然は豊かというくくりの中では語れない地域の魅力がある。そういった部分をパッケージで提供できるものは、今後、(株)ブルックスホールディングスとも協力して、体験型のツアーなども企画したいと思っている。



#### (4) 調査結果

県西地域が未病の戦略的エリアであることをアピールする拠点施設とし、(株)ブルックスホールディングスと大井町の共同提案に基づいて県とともに地域一体となる活性化の取組を目指していた。

以上のように、未病バレー「BIOTOPIA」における未病戦略等の取組を調査したことにより、本県の今後の施策を審査する上で、参考に資することができた。

<参 考>

1 随 行 者 吉田主査（議会局議事課）、古河主幹（政策局総務室）、  
弟子丸主幹（総務局総務室）

2 調査箇所側出席者

（1）湘南ヘルスイノベーションパーク

武田薬品工業(株) 湘南ヘルスイノベーションパーク ジェネラルマネージャー、  
同渉外ヘッド、同担当者、楯岡政策局長、金井ヘルスケア・ニューフロンティア  
推進統括官、宮坂国際戦略担当部長、大木ライフイノベーション担当課長、柏木  
政策局企画調整担当課長、田中総務局企画調整担当課長、ヘルスケア・ニューフ  
ロンティア推進本部室GL、同室担当者

（2）未病バレー「BIOTOPIA」

(株)ブルックスホールディングス会長、同代表取締役社長、同開発事業部担当  
者、楯岡政策局長、有泉地域政策課長、柏木政策局企画調整担当課長、田中総務  
局企画調整担当課長、地域政策課課長代理、同課担当者